

福祉とアートが出会うとき 2

スニップアートスタンプ作品を飾ってみよう

福祉施設・作業所のスタッフ向けワークショップ

薄くて加工しやすいシートをつかったスタンプ（スニップアートスタンプ）でさまざまな作品をつくっている^{スニップ ラブ}Snip Loveを講師に迎え、横須賀市内の福祉施設・作業所のスタッフ向けのワークショップを開催します（今年の1月に開催した、スタッフ向けワークショップの続きです。新規の方も参加できます）。スタンプでつくった作品のフレームをつくって、飾れるように仕上げます。また、当日は、障害がある方（施設利用者）の創作活動や作品について、講師からアドバイスを受ける時間を設けます。

スタンプをつかった取り組みやすい制作や、飾り方などを体験するこのワークショップは、スタッフの皆さんが、当事者の表現活動をサポートする際のヒントになります。新しい表現活動に取り組んでみたい方、他施設・作業所の方と交流する機会を持ちたい方など、是非ご参加ください。

※感染症拡大防止のため、体調不良の場合のキャンセル、マスクの着用等、美術館来館時と同様の対策を行い、ご参加いただくことにご協力ください。また、感染症拡大防止のため事業が中止となる場合があります。

主 催：横須賀美術館、横須賀市福祉部障害福祉課、（公財）かながわ国際交流財団

Snip Love とは？

art を身近なものに！自分らしいアート表現が簡単にできるスニップアートスタンプを使って誰もが楽しめる遊びを展開しよう！と、HAD DESIGN と studio fig がコラボ。2019 年より Snip Love として活動開始。

<HAD DESIGN>

イラストレーターのアーコとデザイナーの hinako による、双子の姉妹デザインユニット。主に広告、商品パッケージデザイン、企画等を多数手がける。近年は、障害者がいかに社会の中で楽しく交わるかをキーワードにしながら障害者施設の店舗プロデュース、商品パッケージ、販促企画等も積極的に取り組む。他に福祉施設のクラブ活動でイラストクラブ等を行っている。

<studio fig>

中村久子・中村晶子が「studio fig」として、どんな子供にも使ってもらえる遊び道具を企画・制作・販売。他にワークショップの企画・福祉活動を通して「遊びの環境づくり」を研究・提案。鎌倉駅前にある、関わりが苦手な子のためのワークスペース「エキマエ スウィッチ」の運営にも携わる。



日 時：2020年12月14日（月）17:00～20:15

対 象：横須賀市内の福祉施設、作業所スタッフ

定 員：抽選12名

場 所：横須賀美術館ワークショップ室

参 加 費：無料（ただし、お車でお越しの際は、駐車場料金が発生します）

参加方法：事前申し込み制（チラシ末にある「申込書」をつかってお申込みください。今年1月に開催した1回目のワークショップに参加された方も、新規の方もお申込みをお願いいたします）。

※施設に、利用者さんが描いた絵などがある場合は、現物あるいは写真をご持参ください。意見交換の際に参考にさせていただきます。



MULPA (マルパ) とは？



（公財）かながわ国際交流財団のよびかけで、神奈川県内の4つの美術館の館長・学芸員と芸術祭連携団体の実行委員等が集まり、立ちあげられたアートプロジェクト。MULPAは、Museum UnLearning Program for Allの頭文字を取った略称で、日本語では「みんなで“まなびほぐす”美術館—社会を包む教育普及事業—」としています。定住外国人や障害のある方々を含む「すべての地域住民」の、美術館へのアクセスを目的として、地域の美術館が芸術祭や大学と連携して包摂的な教育普及事業を検討・展開していきます。

お問い合わせ先 申し込みについて →横須賀市福祉部障害福祉課（担当：宮崎） TEL:046-822-9837
内容とアクセス、料金について →横須賀美術館（担当：立浪） TEL:046-845-1212

参加申込書（申し込み締め切り12月7日）

横須賀市福祉部 障害福祉課就労支援係 宮崎 あて

FAX 046-825-6040 Eメール hp-hw@city.yokosuka.kanagawa.jp

※Eメールでのお申し込みは、下記項目の内容を本文に記載し、メールタイトルに「福祉とアート2」と書いてください。

代表者氏名		所属	
所属先 電話番号		所属先 FAX	
所属先 Eメール	@		
	参加人数 計__名 参加するスタッフ全員の氏名_____		
参加理由	参加してみようと思った理由や、講師に聞いてみたいことなど、お書きください。		